資料4

今後の進め方について

今後の進め方について

道路インフラとの連携

■これまでの取組

〇高速道路

新東名高速道路において、レベル4自動運転トラックの自律走行を支援するインフラ連携の実証実験を実施し、路側から事前に道路状況を車両に提供することで、安全で円滑な走行を支援できることを確認。

一方、新東名高速道路は比較的難易度が低い（合流長が長い等）道路環境であることから、全国展開に向け、より厳しい道路環境において実証が必要になるとともに、実装に向けて更なる高度化（車線別の先読み情報提供等）が必要。

〇一般道

様々な環境やユースケースにおいて、路車協調システムや走行空間整備の実証実験を実施し、インフラ支援の有効性を確認するとともに技術基準等の作成に必要な知見を収集。

技術基準等の策定にあたっては、より実装に近い環境において基準等の試行が必要。

■今後の進め方

〇高速道路

安全・円滑な走行を支援する道路インフラの全国的な展開に向けた考え方を整理するため、自動運転トラックの開発状況や物流のニーズ等を踏まえるとともに、より厳しい道路環境（合流長が短い等）を有する東北自動車道（佐野SA～大谷PA）において実証実験を実施するとともに、乗用車（有人ドライバー含む）を対象とした実証実験を実施。

〇一般道

路車協調や走行空間整備、データ連携に関する実証実験を通じて得られる結果を技術基準等の作成に活用し、必要なインフラ等を多様な主体が整備・活用できる環境を構築する。

さらに、技術の進展が早い自動運転技術の動向を踏まえ、必要に応じて基準等の改善等を実施。

情報通信インフラの取組

■これまでの取組

〇通信インフラの整備・制度整備等

- 自動運転車両の遠隔監視等に必要となる安定的な通信確保のための携帯基地局高度化（5GSA化）支援
- 5.9GHz帯V2X通信導入のための既存無線局の周波数移行の順次実施とともに、周波数移行の全国的実施に必要となる制度整備
- 新東名高速道路での関係省庁等と連携したV2X通信の走行実証

を実施。

〇新たな通信インフラ政策

自動運転時代の次世代の”ITS通信”研究会（第3期）において、中長期的な視点も含めた通信インフラ政策の在り方等について検討・整理。

■今後の進め方

〇通信インフラの整備・制度整備等

- 政府が選定した「先行的事業化地域」等を中心とした携帯基地局高度化（5GSA化）支援
- 5.9GHz帯V2X通信導入のための既存無線局の全国的な周波数移行の順次実施
- 一般道を中心としたV2X通信による自動運転の円滑・安全な運行支援の有効性検証及び5.9GHz帯V2X通信の技術的条件の順次策定

を実施。

〇新たな通信インフラ政策

自動運転時代の次世代の”ITS通信”研究会（第3期）において通信インフラ政策の在り方等についいて整理・とりまとめを行い、その内容を踏まえた各種施策を推進。

交通情報提供の在り方

■これまでの取組

〇V2N／V2Iによる信号情報提供の実現スキーム

・ 提供体制及び費用負担の在り方について検討が必要

〇交通情報提供に関するルールの在り方

・ 自動運転車に対して交通情報を提供する事業者の役割や責任の在り方について検討が必要

■今後の進め方

〇V2N／V2Iによる信号情報提供の実現スキーム

・ 信号情報の提供を受ける受益者が限定的になることが想定されるため、信号情報の提供に必要となる施設の整備、情報提供に係る費用は、受益者負担によるV2I方式の信号情報提供を基本

・ V2N方式による信号情報の提供については、これまで積み重ねられた調査研究の成果を必要となった際に活用できるよう、ガイドラインとして取りまとめ

〇交通情報提供に関するルールの在り方

・ 第三者に対して信号情報を提供する実証実験の状況を踏まえ、信号情報の生成、提供及び利用に関する関係者間における責任分界等交通情報提供に関するルールを策定する必要性について、継続して検討